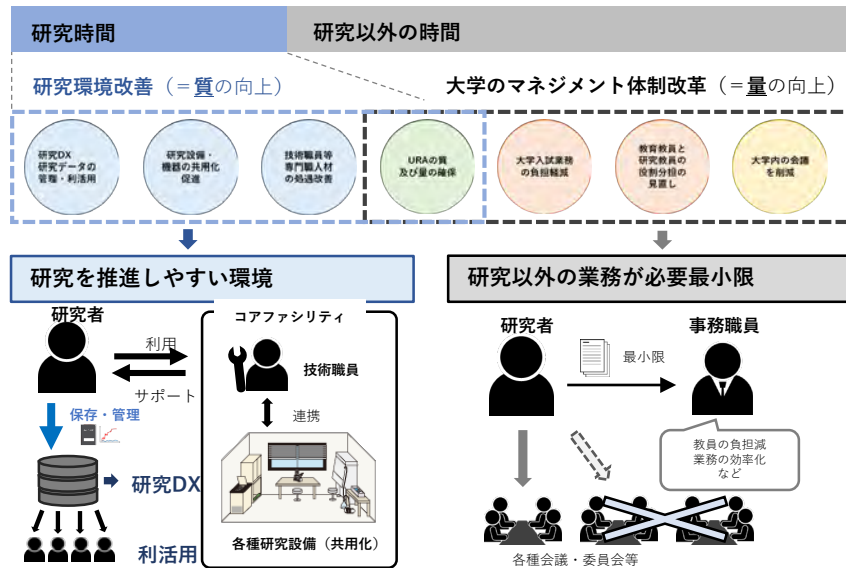


## 研究に専念する時間の確保に係る検討経緯

- 近年の我が国の研究力低迷、またキャリアパスの見通しが立たないことによる研究者という職業の魅力低下への危機感から、CSTIは、令和2年、「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」を策定、その後関係省庁の熱心な取組のもと、関連施策が推進されている。
- 「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」のフォローアップの一環として、8つのテーマについて「**研究に専念する時間の確保**」について検討を行ってきた。
- 大学のマネジメントと関わりのある7つのテーマについて、**大学における、研究に専念する時間の確保に向けた行動変容を促すために、「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」の改定と連動させ、残る「大学の評価疲れ申請疲れに対する方策」について検討した。**
- これまでの議論をとりまとめ「最終まとめ」とし、また評価疲れに関するアンケートについて議論する。

### ● 7つのテーマ：研究時間の質・量の向上に関するガイドライン



ガイドラインとして「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」に記載し、マネジメント層に対して行動変容を促す。

### ● 1テーマ：評価疲れ申請疲れに関する検討

2月16日の議論を踏まえ、残る1テーマについて、アンケート調査に向けたとりまとめを行う。



## 「大学の評価疲れ申請疲れに対する方策」



最終とりまとめと併せて、本資料の後半で、アンケート調査について議論する。

# 研究に専念する時間の確保について (最終まとめ)

## 大学マネジメント層に向けた観点

## 研究時間ガイドライン

## 政府 (各府省庁・FAなど) 側で検討・対応する事項



### 研究DX研究データの管理・利活用

- 各大学のオープンアクセスポリシー・データポリシーの策定
- 機関リポジトリの構築・活用 (論文や研究データ等の研究成果の収載・公開状況)
- 研究DX支援体制の整備
- 新たな研究アプローチのユースケース創出



### 共用設備・機器の共用化促進

- 研究設備・機器の共用方針の策定
- 研究設備・機器の共用化による環境整備
- 共用設備・機器の活用

### 「コアファシリティ」の整備運用

- 共用機器を管理する「統括部局」の確立
- 「統括部局」と連動した技術職員の活用



### 技術職員等専門職人材の処遇改善

- 技術職員の研究活動に対する貢献 (とその可視化)
- 専門性の高い技術職員を獲得する環境整備の状況 (給与・待遇の整備とその実施状況)



### URAの質及び量の確保

- URA等の専門人材の配置・育成 (各大学やURAスキル認定機構の認定URA、その他のURAや研究推進等に係る事務職員や技術職員等)
- 研究者とURA等の連携による研究環境改善
- URA等の専門人材のキャリアパス構築と研究マネジメントへの参画
- URA等の専門人材を活用した事務手続改善の取組 (事務手続の改善による研究時間の確保に資するもの)
- URA (大学) とPM (FA) との人材流動性の向上

## 「研究時間の質・量の向上に向けたガイドライン」

- 各大学の実情に応じた体制整備、各大学におけるデータキュレータ等の専門人材の確保

研究データエコシステム構築事業においては、事業に参画する機関をはじめ、各大学等における研究データマネジメント支援体制の構築支援を推進

日本学術会議からの回答を踏まえ、大学における支援体制や必要な人材を検討

検討結果を踏まえた具体的な施策を実施

- 機器共用施策と研究データ管理・利活用施策との連動

研究設備・機器の共用と連携した研究データの共有・利活用の取組を推進

- 機器整備状況・共用状況の把握、各大学及び各大学の枠を超えた機器共用体制の構築

共用推進ガイドライン周知とそれを通じた各機関における共用の促進、機器整備状況・共用状況の把握

共用機器を見える化するデータの収集とそれを通じた共用状況把握の仕組みを検討

大学の枠を超えた取組について、大学共同利用機関、共同利用・共同研究拠点等を中核とした共同利用・共同研究体制を推進。2023年度からは、分野を越えた連携を推進し、多様な分野の研究者が共同利用・共同研究体制に参画する機会を拡大するシステム形成も支援

- 競争的研究費の在り方の再検討

代表的な競争的研究費における実態、海外での取組などを参考にしつつ、機器の共用を競争的研究費の仕組みにより促進する方策を検討

- 機器共用を支える技術職員の確保

共用推進ガイドライン周知を通じ各機関における技術職員の確保を促進

共用推進ガイドラインの実施状況FU及びそれを踏まえた必要な施策の検討

- 各機関における技術職員活用状況把握

共用推進ガイドラインの周知とそれを受けた各機関における技術職員活用状況の把握

技術職員が研究力向上に貢献するかのエビデンスの可視化、及び共用に資する技術職員のスキルの全国レベルでの可視化を検討

- 技術職員のキャリアパスの明確化

共用推進ガイドライン周知を通じ技術職員のキャリアパス明確化を促進

ガイドラインの実施状況FU及びそれを踏まえた必要な施策の検討

※共用推進ガイドライン: 「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン (2022.3.)」

- URAの質保証の実施及び各大学のURAの確保や大学の枠を超えたURA体制の構築

URAに必要な専門知識研修やURAの認定を行う質保証機関の運営支援

【リサーチ・アドミニストレータ等のマネジメント人材に係る質保証制度の実施】

URAやPM等の研究開発マネジメント人材の育成・活躍促進に係る施策の一体的な推進

# 研究に専念する時間の確保について (最終まとめ)

## 大学マネジメント層に向けた観点

### 研究時間ガイドライン

## 政府 (各府省庁・FAなど) 側で検討・対応する事項



### URAの質及び量の確保

(再掲)

- URA等の専門人材の配置・育成 (各大学やURAスキル認定機構の認定URA、その他のURAや研究推進等に係る事務職員や技術職員等)
- 研究者とURA等の連携による研究環境改善
- URA等の専門人材のキャリアパス構築と研究マネジメントへの参画
- URA等の専門人材を活用した事務手続改善の取組 (事務手続の改善による研究時間の確保に資するもの)
- URA (大学) とPM (FA) との人材流動性の向上



### 教育教員と研究教員の役割分担の見直し

- 研究と教育それぞれに重点を置いた教員の活用
- バイアウト制度の柔軟な活用
- 授業以外の学生対応 (メンタルケアなど) を担当する専門人材の確保



### 大学入試業務の負担軽減

- アドミッションオフィス、事務職員や外部委託を活用した入試業務の推進
  - 入試問題作成業務の負担軽減 (過去問利用や他機関との連携)
- 注：大学の教育理念に基づき、大学が責任を持って実施



### 大学内の会議を削減

- ガバナンス体制の見直しによる委員会や会議の削減
- 運営組織にかかる委員会等の統廃合や形式の変更
- 実施する会議の省力化・効率化



### 大学の評価疲れ申請疲れに対する方策

- URAの質保証の実施及び各大学のURAの確保や大学の枠を超えたURA体制の検討

URAに必要な専門知識研修やURAの認定を行う質保証機関の運営支援  
【リサーチ・アドミニストレータ等のマネジメント人材に係る質保証制度の実施】

URAやPM等の研究開発マネジメント人材の育成・活躍促進に係る施策の一体的な推進

- 大学入試業務の負担軽減に関する検討

中央教育審議会大学分科会において、  
・業務内容に応じて事務職員や大学院生等の積極的な活用  
・過去の試験問題の活用等、問題作成の合理化 等  
の内容を含む「教学マネジメント指針 (追補)」 (令和5年2月24日) を取りまとめ、大学に周知

研究時間の確保など、創発的研究支援事業の採択者の研究環境改善に取り組む大学については、事業より別途支援。

強みや特色ある研究、社会実装の拠点等を核に、これら研究時間の確保も含め、研究力の向上戦略を構築の上、その取組に全学としてリソースを投下する大学については、【地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (新規) 等】において支援。

全国の国公立大学がし得る、分野の枠を超えた学際共同研究を実現するための、マネジメント人材登用や技術職員確保等も含めた研究体制の整備を【共同利用・共同参画研究システム形成事業 (拡充)】において支援。

前回・今回の木曜会合

- 大学の評価疲れに対する対策の検討

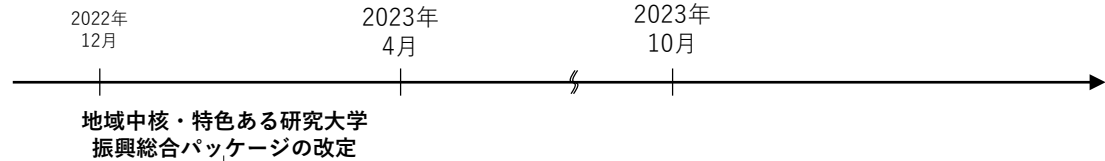
研究者の評価疲れ申請疲れに関するアンケートの検討・作成

アンケート調査の実施

アンケート結果のとりまとめ

研究に専念する時間の確保  
(最終まとめ、評価疲れアンケート)  
(令和5年3月30日 CSTI木曜会合)

## 研究に専念する時間の確保について（研究時間に関連する事業など）



### 地域中核・特色ある研究大学振興総合パッケージ

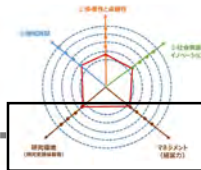
研究時間の質・量の向上に  
関するガイドライン



総合振興パッケージを通じ、大学の戦略的経営を後押しすることで、大学現場における研究に専念できる時間を確保

#### 大学像の羅針盤の項目

- ・研究環境（研究支援体制等）
- ・マネジメント（経営力）



### その他、研究に専念する時間に関連する取組

研究時間確保の  
ガイドライン検討

パッケージの各事業内容に基づいて  
大学ごとに研究時間の確保に向けた取組を実施

★ パッケージの事業の中で、研究環境に  
関する取組があればフォローアップ

（研究時間確保に関する取組の例）



創発的研究支援事業

- 「研究環境改善のための追加的な支援」  
● 採択研究者の研究時間確保など環境改善に努めた所属機関を追加的に支援し、取組を引き出す。

研究環境改善について連携する

その他：地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 など

2024年 FTE調査  
2023年 NISTEP定点調査

大学の評価疲れ申請疲れに対する方策

大学の評価疲れ申請疲れに対する方策

研究者の評価疲れ申請疲れに関するアンケートの検討・作成

アンケート調査の実施

アンケート結果のとりまとめと対応策の検討